徳を備えた為政者ですから、尭は限界を自覚したとき、後継者として舜（実の息子ではない）に位を譲ったとされます。これを「禅譲（ぜんじょう）」（その地位を血縁者でない有徳の人物に譲ること）といい、武力で権力を奪取することは「簒奪（さんだつ）」です。また、これに対して古代における最低の王とされるのが紂・傑の二人の王です。この権力者のタイプの極端な二者択一の発想は、漢文世界を読解する上での必須の常識となります。

⑧ **霜葉紅(ハ)於(二)二月(ノ)花(一)**

■「霜が降りて紅や黄に変化した葉は、二月の花より紅い」唐詩の有名な一節です。**二月花**とは桃の花を指すとされます。ポイントは⑥と同じです。

⑪ **多(C)労(S)少(C)益(S)**

■「労多くして益少なし」読みも内容も解説はいらないでしょう。**多労少功**（『荘子』）という言い方もあります。英語の諺では、You fish fair and catch a frog（魚釣りガンバッてやって蛙一匹！）というのがあります。「**多・少**はＶＳ倒置構文」というポイントを覚えるのに最適な例文ですね。

⑫ **易(C)言(S) 難(C)行(S)**

■前問同様に、**難・易**も第２文型のＶＳ倒置構文となりますが、見かけが同じでも、文法構造は大きく異なります。試しに英文訳すると、

It is easy to say,but dificult to do.

ということですから、単に名詞が倒置されているのではなく、不定詞句が主語となる（これは**可**でも説いた通り）点に注意が必要です。勿論、漢文には形式主語はありません。というのは、多い・少ないの主語となるものは、基本的に「人が…すること」という事態であり、これに様々な修飾句がつくものだからです。

3 返り点と送りがな（3）

下-上点など

返り点には、この他に「上下点」があり、さらに「甲乙点」まであります。さらに「下・中・上」とか、「丙・乙・甲」のように三段階（以上）になることもあります。まず、序列からいうと、

一二点＜上下点＜甲乙点

です。このルールを視覚的に表現すると、

乙	下 二 一 上	甲

となります。これらはどんな時に現れるのでしょうか？すでに文法解析した例ですが、訓読法では次のようになります。

客有(リ)(下) 能為(ク)(二)狗盗(ス)(一)者(ヲ)(上)

大枠では、**関係詞名詞節の主語が下-上点で示されている**ことが分かりますね。その節の中がＶ³動詞の**為**であり、目的語が二文字の**狗盗**なので、二-一点が必要になりました。この例からわかるように、上-下点が現れるのは、第一に、

〈1〉関係詞節の中に他動詞を含むためであることがわかります。

すでに学んだ次の例もまったく同様のパターンです。

楚人 有(下) 鬻(二)盾与(レ)矛者(上)

この例から明らかなように、**下-上点の中には、二-一点がすっぽりと含まれる形**になります。漢文入門としては、下-上点を使う例の紹介は、もっとも多いこのパターンだけにしておきます。これ以外のパターンは、もう少し学習が進んでからでよく、さらに甲乙点等については、もっと複雑な文構造の理解が必要ですから、これは応用編で説くことにします。

漢文法基礎ドリル３

① **客有 能為狗盗者**

② **有(下) 献(二)不死之薬於荊王(一)者(上)**

③ **客有 教(フル)燕王(ニ)為(スヲ)不死之道(一)者**

漢文法基礎ドリル３

【解析と解説】

① **客(副) 有(V¹)(下) 能(S＝〔助) 為(V³)(二) 狗盗(O)(一) 者(関〕)(上)**

■「ドリル」ですので、同じ例文が繰り返しでてきます。復習しながら別の視点から学び直すのです。まずは復習ですが、**有**の後にある**能**…**者**が主語の関係詞名詞節であり、その節内の他動詞為に二-一点が用いられていますので、節は下-上点で挟む形となっています。

ちなみに、**能**は助動詞ですので、本来は以下のような返り点となるべきです。

客(副) 有(V¹)(下) 能(S＝〔助)(レ) 為(V³)(二) 狗盗(O)(一) 者(関〕)(上)

しかし、**能**＝「よク」という訓読のために訓点の打ち方は、例外的な扱いとなっています。しかも、このような点が「盲点」として入試頻出ポイントとか言われるにいたっては、呆れるしかありませんね。でも、現状では仕方ないのでしっかり覚えてください。

② **有(V¹)(下) 献(S＝〔V⁴)(二) 不死之薬(O) 於荊王(O)(一) 者(関〕)(上)**

■「不死の薬を荊王に献ずる者あり」**献**とは、下から上への give ですからＶ⁴です。ここでは、「物を＋人に」の順になっています。その区切りとして、汎用前置詞**於**が用いられていますが、これは目的語であることを明示する働きです。二つの目的語を取るため二-一点を使うので、関係名詞節を示すために下-上点が挟む形になっています。

③ **客(副) 有(V¹)(下) 教(S＝〔V⁴) 燕王(O)(二) 為不死之道(O)(一) 者(関〕)(上)**

■「客の中に、荊王に不死の道を教える者あり」**教**もＶ⁴ですが、こんどは「人に＋物を」の順になっており、目的語を明示する前置詞は有りません。これなどは英文法とフシギと重なる箇所です。同様に二つの目的語を取るため二-一点を使うので、関係名詞節を示すために下-上点が挟む形になっている例文です。

《続了》

《筆者紹介》いちかわひさよし
大学進学教育ＧＨＳ専任講師。鎌倉市生まれ・東京大卒。十年程前に東京を離れ、山峰に抱かれた信州の地に拠点を移し幅広く活動。高校時分より言語学に興味を抱き、言語と語学に関する著作を渉猟し、以後受験英文法に飽き足らず、現代中文法、ドイツ語文法、古典ギリシア語、古代和文法等を学ぶ。「理系こそ国語力！」をモットーに、和人の教養の源泉としての漢文教育の復権を目指し、斬新かつ独創的な漢文法による講義を行っている。２０１４年春、育文社より『思考訓練の場としての漢文解析』を刊行し好評のうちに初版完売。そのスピードは育文社の新記録となった。

医験vol.16.10-漢文_再校.indd 164-165
2015/07/21 10:07

ノ、**コト**、**人すべてに使える**点も英語と異なるので要注意です。

・**無**は動詞です。古和文では「なし」という形容詞であるからといって、これを形容詞とするのはマチガイです。翻訳先の言語の品詞を元の言語に押し付けるのは反則です。**有**が exist とすれば、**無**は not exist です。

漢文法基礎ドリル２

① **客有能為狗盗者**

※狗盗〔犬のようにひそかに盗みをする賊の意から〕こぬすびと。こそどろ。

② **楚人有鬻盾与矛者**　※**鬻**＝sell

③ **有兵守関不得入**

④ **子非吾友也**

⑤ **勇者不必有仁**

⑥ **霜白於雪**

⑦ **尭老倦于勤**

※尭（ギョウ）＝舜（シュン）とともに古代中国の聖帝とされる。

⑧ **霜葉紅於二月花**

⑧ **多労少益**

⑨ **易言難行**

漢文の倒置構文といえば…
有無・多少・難易の三組と覚えよ

漢文法基礎ドリル２

【解析と解説】

① **客有能為狗盗者**

■「客人の中に、盗みのうまい者がいた。」**客**は漢文重要単語で、現和語の「お客様」とは違います。何らかの能力・技芸をアピールして、その土地の有力者に食わせてもらっている人達です。時代劇にでてくるヤクザの用心棒のセンセイもその類いです。**客**には前置詞は表現されていませんが、「～の中に」という副詞句です。主語と間違えないようにしましょう。

有は存在を表すV_1動詞です。その後にある**能**…**者**が主語の関係詞名詞節であり、その節内の他動詞**為**に二|一点が用いられていますので、節は下|上点となっています。**能**は訓読で「よく…ス」と読み、**不能**は「よく…セズ」ではなくて「…するあたハズ」とよみ、これもまた肯定と否定とでズレた読み方をします。英語の助動詞 can と can't ですから、「できる」・「できない」とすれば済むことですが、これなどは訓読法の実に困った点です。この**能**については、後の「再読文字」のところで改めて触れることにします。

② **楚人有鬻盾与矛者**

■この文については、『漢文解析』第２章も参照していただくこととして、長い名詞節が主語となりＶＳ倒置構文となる典型例です。ここでは訓点についてコメントします。前置詞**与**＝with によってレ点が必要となり、かつ他動詞**鬻**により二|一点を

使った例です。下|上点については次の項で説明していますが、関係詞名詞節内に、他動詞**鬻**で二|一点を使ったので、関係詞節の範囲を示すために、それよりも大きな枠をしめす下|上点を用いた例です。

③ **有兵守関不得入**

■「兵あり、関を守る。入るを得ず。」**有**はＶＳ倒置構文をとり、あとに主語のカタマリ（関係詞名詞節）が来るものですが、ここでは名詞が単独で主語となっています。**有兵守兵**までが従属節で「…なので、」という意味ですが、文意明瞭ですので、理由を表す接続詞は省略されています。**不得入**の主語は話者を含む「我々」ですが一般人称なので省略されていると考えられます。**不得**＝can't 助動詞と否定ですから、和語では動詞のあとにきて、文末表現になりますから、返り点が必要となります。

④ **子非吾友也**

■**非**＝is not は否定＋断定のV_2動詞です。**子**は漢文必須単語で、二人称・敬称の代名詞です。「あなたは」とか「先生は」という訳になります。「あなたは、私の友人ではありません。」（対等ではなく、私の師です！）**也**は断定を後押しする「！」「。」に相当する文末記号です。訓読では、和語の断定助動詞「なり」が文末にあることから**也**＝ナリと読むことがありますが、be動詞を知らなかった古和人の不可抗力的な誤解によるものです。

⑤ **勇者不必有仁**

■「勇者は必ずしも仁あらず」と訓読しますから、**勇者**が主語のように見えますが、文法的には、「勇者には」という副詞句であり、主語は**仁**です。助詞「は」・「が」がついているから主語だ、というような単純な発想からは卒業しましょう。

さて、「その人の中に分ちがたく有るもの」、すなわち「その人と結びついているもの」をこの構文で表現しますが、時代が下ってきて、かつ、「所有」なる概念が登場してくると、人が文頭にくるときの**有**は、英語の have の用法に接近してきて、現代中国語へとつながっていきます。そうすると勇者が主語という見方ができます。ただし、そこから漢文を解釈にかかると**有**の本来の姿がみえなくなるので注意が必要です。

⑥ **霜白於雪**

■「霜は雪より白い」という第２文型比較級の例です。前置詞**於**は、つい「…において」と読んでしまいがちですが、汎用の前置詞と捉えるべきであり、場所だけでなくこのように than の意味にもなります。英文と異なり、形容詞には比較級や最上級の形は勿論ありません。また、『漢文解析』第４章●頁に説いたように、漢文の比較構文の本隊は動詞（由来）構文ですから、そちらの方のドリル演習で改めて説くことにしましょう。

⑦ **尭老倦于勤**

■「尭は年老いてきたため、皇帝としての勤めが辛くなってきた。」英語のbe tired of ～を想起すると分かりやすいですね。**于**は**倦**という状態の原因をあらわします。儒教では**尭**（ギョウ）と**舜**（シュン）とともに古代中国の伝説的な聖帝とされ、無条件で「聖にして善なる者」とされます。最高の

医験vol.16.10-漢文_再校.indd 166-167　2015/07/21 10:07

るV4動詞ですが、ここでの買手は不特定多数ですから表現されていません。このように**動詞の文型は基本的に動詞の意味そのもので決まる**ものですから、表現された部分だけをみて形式的・表面的な文型分類をしないように心がけましょう。

⑥ **秦皇平‐定二天下一**
（S 副 V3 O）

■「秦の皇帝が天下を統一した。」③と同じ構造ですね。広大な中国を史上初めて統一したのが秦という国家であり、それゆえ秦の初代皇帝は「始皇帝」というのだと中学社会で教わったでしょう。ちなみに、『キングダム』（原泰久・集英社）という漫画がこの道のりを秀逸に描いており、NHKでアニメ化放映されているのはご存知の通りです。

⑦ **百聞不レ如二一見一**
（S 否副 V3 O）

■「百聞は一見にしかず」という有名なフレーズですが、文法的には学ぶべきことがいくつかあります。「百回聞くこと」という動名詞句がが主語「1回見ること」という動名詞句が目的語ですね。全体としては同等比較構文の否定です。**不如**は訓読で「ごとシ」と読みますが、**如**単独では「ごとシ」と読み方にズレがあります。「匹敵する・同等だ」という訳語でおさえておけばよいでしょう。**如**は元々「従う」の意味のV3動詞です。この点に関しては、『漢文解析』p.91, 184,237を参照してください。

⑧ **孔子問二礼ヲ於老子ニ一**
（S V4 O O）

■「孔子は礼（とは）を老子に質問した」**問**＝ask は⑤の**売**と同じくV4動詞です。前置詞**於**は「おいて」と呼んでしまいがちですが、ここでは目的語であることを明示する用法ですから「〜に」と読みましょう。ただし、ここでは「置き字」（＝無視）扱いですから、返り点がついていません。構文さえとれれば必要ありませんが…。

⑨ **諸葛亮挑二司馬懿ニ戦ヲ一**
（S V4 O O）

■三国志の有名人です。「諸葛亮は司馬懿に戦いを挑んだ。」**挑**も**売**や**問**と同じく相手と内容とを必要としますからV4動詞です。前文とは「〜を」と「〜に」の順が逆になっていますが、順番がキッチリときまっている英文法とは異なり、漢文ではどちらも第4文型ととらえることが肝要です。

⑩ **兎走触株 折頸 而死**
（S V1 V3 O V3 O 接 V1）

■「ウサギが走っているうちに樹の切り株に接触し、首の骨を折って死んだ。」故事成語「株を守る」の一節です。偶然が重なったにすぎない成功をあてにする怠け者への批判です。接続詞**而**（ジ）は等位接続詞であり、一連の動詞の最後を示す点は英語に似ていますが、順接か逆接かは決まっておらず（ここでは一応、順接）、この点英文法とは異なります。『漢文解析』p.　参照。

2　返り点と送りがな（2）

レ点と二‐一点❷

良薬ハ苦シ二於口ニ一

この例では、**苦**は**良薬**の性質を表す形容詞ですから、英文なら、Good medicine is bitter. のようにbe動詞などの第2文型動詞が必要です。しかし、漢文法ではbe動詞に相当する断定判断を表す語（**是**）は一般に省略されます。すると

良薬苦　山深

のように単語を並べただけにみえるので、

花落　日出

のような第1文型の文と見かけでは区別がつきませんから、注意が必要です。これまでの文法的説明のように、［主語＋述語］というようなおおざっぱな捉え方をするとこの区別ができません。

次に、**於口**は前置詞句です。英語の be fond of… や be good at…と同じような形です。和語には前置詞というものがありませんから、訓読法では送り仮名で「二」と補い、**於**は「読まない字」「置き字」というふうに解釈してきました。

前置詞は、和語の助詞とは逆順になりますから、二…一点を使うことになります。**於口**を「口に」という前置詞句とみればよく、文法解析すると、

良薬 苦 於口
（S V2 C 前句）

この例から、訓読法におけるレ点、二ー一点の使用場面として、第二は、

〈2〉前置詞句の目印

です。

では、次の文の文型は何でしょうか?

有レバレ備ヘ無シレ憂　**※憂は患とも書く**

「存在」を表現する文は第1文型です。上に示した第1文型の例文と異なり、存在を表す動詞**有**・**無**はVS倒置構文となるのが漢文の特徴です。英語の「存在」をあらわす There is ～構文と同様です。

有 備 無 憂
（V1 S V1 S）

どうしてVS倒置の形になるのでしょう?次の例文をみてみましょう。

宋人ニ有リ二耕スレ田ヲ者一

典型的な書き出しです。〈副詞句〉＋V＋Sの順序にならんでいますが、主語にあたる部分は、「田を耕す者」というふうに関係詞**者**がつくる名詞節となっています。このように主語を説明的に提示するために長くなる傾向があり、それはしばしば関係詞節となるために、漢文的バランス感覚として、VS倒置の形になってきたと考えられます。文法解析すると、

宋人　有　耕田者
（前副句 V1 S＝[V3 O 関]）

この例から、訓読法におけるレ点、二ー一点の使用場面として、第三には、

〈3〉存在を表す有無の VS倒置構文の目印

であることがわかります。

【補足】

- 正式な英訳は Good medicine tastes bitter.
- 「宋人に」は、**among** So-people に相当する前置詞句です。ただし、漢文では、この構文の最初は**場所や範囲を示すことがわかりきっているので前置詞を省略するる**のが常です。
- 関係詞**者**には「先行詞」はありませんし、節末に置かれます。それらは西欧語の特殊性であり、関係詞の要件ではありません。**主格の関係代名詞であり、モ**

医験vol.16.10-漢文_再校.indd 168-169　2015/07/21 10:07

1　返り点と送りがな（1）

レ点と二ー一点❶

訓読法の「返り点」は、古和文とは語順が異なる漢文をどの順序で翻訳するかの順序を示したものです。「送りがな」は、「返り点」の補助として、**動詞や形容詞などの品詞を知らせてくれたり、漢文では表現されない名詞の格や時制などを補う役割**を果たしています。これらは古和文に則ってカタカナで両側に小さく書くルールになっています。たとえば、

挙ルレ頭ヲ

この例では、**挙**（キョ）が送りがな「ル」によって動詞であることがわかります。**挙**は主語（省略）の動作を表す**第3文型の他動詞**ですね。（これをV_3と書くことにしましょう。）**頭**は、送りがな「ヲ」によって名詞であり目的語であることがわかります。他動詞の場合は、日本語と語順が違うので、それをレ点で示す必要があったのです。逆に、それさえわかれば、英語を読むときと同様に、返り点や送りがなは不要です。

挙頭（V_3　O）

「頭を挙げる」（一人称主語は省略）

この例は、目的語が一字なのでレ点で済みましたが、二語以上の目的語を取る場合は、二ー一点を使います。

挙テレ頭ヲ望ム二山月ヲ一

「頭を挙げて、山月を眺める。」

この例では、V_3他動詞**望**が二字の目的語を取ることを送りがな「ヲ」で示しています。しかし、英語を知る現和人ならば、両者の区別は不要であり、次の表示で充分でしょう。

挙頭臨山月（V_3　O　V_3　O）

この例から、訓読法におけるレ点、二ー一点の使用場面としては、

〈1〉他動詞の目的語の目印

であることがわかります。

【補足】漢文では、**必ず動詞の順序が時間の流れに一致**します。英語と異なり時間が逆になる表現はありません。2つの動詞の間にandにあたる接続詞**而**などがあってもいいはずですが、右のようなルールから**特に必要のない限り省略**します。これは漢詩の一節であり五文字にする必要があるためもあり主語もまたカットされています。

漢文法基礎ドリル1

次の例文の文型・品詞を記しなさい。

① 尽二人事一待二天命一

② 悠然トシテ見二南山一

③ 吾日ニ三二ー省ス吾身ヲ一

④ 歳月不レ待タレ人ヲ

⑤ 懸ケテ二羊頭一売ル二狗肉ヲ一

⑥ 秦皇平二定天下一

⑦ 百聞不如一見

⑧ 孔子問フ二礼ヲ於老子ニ一

⑨ 諸葛亮挑ム二司馬懿（しばい）ニ一戦ヲ

⑩ 兎走触株折頸而死

【解析・解説篇】

実際の授業で行っている解説の要点です。実際には、行間に様々な漢文雑学（教養）をまじえていますが…。

漢文法基礎ドリル1

① 尽二人事一待二天命一（S　V_3　O　V_3　O）

■「人事を尽くして天命を待て」とは、受験生に対しても使われる有名フレーズですね。第3文型が並んでいますから、二ー一点が使われます。この格言は、命令文ですから主語は一般人称 you であるため省略されていると考えられます。

② 悠然見二南山一（S　副　V_3　O）

■「悠然として南山を見る」　V_3動詞**見**の上には、「…トシテ」という送りがなからもわかるように**悠然**という副詞がのっかっています。原則として漢文の副詞は和語と同じく動詞の前におきます。主語は一人称ですが、漢詩の一節であり省略されています。

③ 吾日三ー省二吾身一（S　副　V_3　O）

■「私は、一日のうち自分の言動を何度も振り返るようにしている。」という意味ですが、あの「三省堂書店」の命名の元です。**日**と三とはともに副詞であり時間と頻度を表していますが、訓読では**三省**という一つの動詞として呼んでいるので、このような返り点となっているのです。ちなみに、「三度目の正直」とか「仏の顔も三度まで」というような言い方があるように、二元論的思考の漢文世界では、単に三回という回数を表すだけでなく、「何度も」という意味に解したほうが良い場合がありますす。『漢文解析』の第5章・問題1にも同様の例がありますから参照してください。

④ 歳月不レ待レ人（S　否副　V_3　O）

■「歳月は、人を待たず」　時の過ぎゆく速さを自覚させ、怠惰を戒める有名フレーズです。注目すべきは、**歳月**という「無生物主語」です。英文法にもある文法事項ですが、それはとりもなおさず和語には本来、物主語構文はなかったのだということを示しています。「何があの人をこんなに変えたのか？」という言い方は英・漢いずれにしても外国風の言い回しなのです。**不**という否定副詞を動詞の前におくのも英語と同じですね。これに対して和語では、否定の助動詞は文末となるために動詞からレ点をつかって戻るのですが、要するに英語と同じに読めばよいのです。

⑤ 懸二羊頭一売二狗肉一（S　V_3　O　V_4　O）

■「羊の頭が飾ってあるが、売っているのは犬の肉」ということから、見かけだけで中身が伴わないインチキである場合の譬えに使われます。ここから漢文世界では、羊肉は高級品扱いであり、また犬肉が食用であった（我が国においても同様でありそんなに古い話でもない）ことが伺い知れます。食文化の相対性を学ぶべき例文でもあります。なお、**売**は商品と買手を必要とす

はしがき

古代中国語で書かれた漢文は、和人にとって「外国語」でした。そして、文法構造が大きく異なる漢文を読み解き、その先進文化を読解し吸収するために、古和人が千年以上かけて磨き上げてきた翻訳技術が「訓読法」です。奈良・平安の昔から、この技法は長らく学問に関わる名家各々の秘伝とされ、部外秘であり、様々な流派が生じました。そして時代は下り、やがて儒学の奨励と普及によって、江戸時代中期以降には漢文教育が一般に広まるようになり、明治になってからは法律によって**訓読の方法が統一・標準化される**にいたりました。そして今、私たちが目にするのはこの「訓読法」です。

このような長い歴史をもつ訓読法ですから、現代日本語に溶け込んでいるものも多々あり、**高校生の漢文入門にあたっては、この訓読法から入り、その伝導を受け継ぐことが有効**であることは明らかです。

しかし一方、古和文に訳すための技術として発展したために、現和人にとっては、前提として「古文」の習得（昔の和人には不要でした）という遠回りが必要になります。また、英文法と相通じるところも少なくない漢文法ですが、古和人が英文法を知らなかったゆえに理解できなかった前置詞や関係詞などの品詞や構文があり、文法理論的に見直した方がよい箇所があるのもまた厳然たる事実ですから、**訓読法を現代的な視点から文法的に捉え返して学ぶ**こともまた有効であり、むしろ必須といえるのです。

『思考訓練の場としての漢文解析』（２０１４育文社刊）ではそのベースとなる漢文法の新しい姿を提示しましたが、それは伝統的な漢文訓読法と句形・句法をすでに学んだ人にとっての再入門篇であり、長年の疑問・フシギを解決・解消するのが主目的でした。

これに対して本書は、これから漢文を学び始める人を想定して、和人として誇るべき文化遺産たる訓読法から、漢文法へとつながるように説き起こし、誰もが知っている漢文を素材としたドリル形式の演習を行う構成となっています。教科書によく取り上げられる例文を繰り返し取り上げ、文法的に解析していきます。

その学びを通して新たな漢文法を基礎から理解するとともに、我々の祖先が築き上げた訓読法のすごさ、すばらしさを改めて認識することにもなるはずです。

２０１５年　春

市川久善

新・漢文法基礎

漢文句法・句形

演習ドリル

訓読法の初歩から応用までを
新たな文法的な視点からの講義＆演習！

大学進学教育ＧＨＳ
市川 久善［編著］

医験vol.16.10-漢文_再校.indd 172-173 2015/07/21 10:07

理系のための漢文法解析講義

第16回　漢文基礎句法ドリル〔1〕

大学進学教育ＧＨＳ講師　市川 久善

今後の『漢文解析』

前号のイントロでは、ここで公開した漢文解析例が充分な数に達したことから、本講義の「完結」を予告しましたが、本号をもって『医大受験』の発刊自体が終了ということになりました。そこで今回は、新たなる連載企画のスタートをすることにしました。この続きは大学進学教育ＧＨＳ予備校のＨＰにて、いわゆる「電子ブック」の形で継続する方向で動いています。紙媒体ではなく、デジタルコンテンツとして閲覧・配信する予定です。それは結果的には、連載周期の短縮とコンテンツの充実・拡張となることでしょう。というのも紙媒体では、修正が容易に利かないことから校正作業が必須となり、編集部との複数回のやりとりが必要です。すると、どうしても三ヶ月に一度くらいが講義と並行してできるペースとなってしまいます。

しかしながら、このＩＴ化が急速に進んでいる時代にあって受験生読者にとっては、このペースが〝悠長〟に映るのも仕方ありません。

そもそも、ＧＨＳでの私の講義はデジタルデータとして下書きし、授業を反映して追加・修正して年々歳々積み上げていく形になっていますから、本連載は、それをベースにさらに「推敲と清書」をすることで完成する作業でした。したがって、機動性のある「電子ブック」の形で公開することはその自然な延長でしかなく、時代の要請ともいえるでしょう。

事実、全国各地から、「ＧＨＳに通学できない高校生はどうすればいいのか？」という問い合わせをいただくようになってきました。たしかに、現状では浪人しなくては（しかも上京しなくては）ＧＨＳの授業を受けられないのですから、地方の現役生としてはもっともな話です。そのような声に応える意味もこめての、『医大受験』の発展的な解消と承継とご理解いただければ幸いです。

漢文基礎句法ドリルとは

今年度のＧＨＳの漢文の授業は、新たなる試みとして、センター試験の演習に入る前段階として基礎的な文法の演習を組み込むことにしました。というのも、本誌連載の蓄積によって、すでにそれ相当の漢文の知識がある受験生は、『漢文解析』をふまえて、独習することが可能となっているからです。とすれば、高校時代にまともに漢文に触れられていない人、漢文にまで試験対策の手が届いていない人などのために、もっと高校の漢文の原点・基本から説いていくことに重きを置くべきだと考えたからです。

さらにいえば、『漢文解析』は、すでに漢文の知識があり、漢文を学び直したいと思っていた「昔の受験生」に新たな視点と刺激を提供した点で好評を博し、「お父さん世代」の方から熱心なお便りが届きます。それは裏返してみれば、これから漢文を学ぶ高校生にとってみれば、ハードルが高いと感じることでしょう。『漢文解析』で説いた文法上の問題、訓読のフシギの解明も、訓読法をしっかり学んだという前提があってはじめてその真価を感得できるものだからです。その意味で、これから説く「漢文基礎句法ドリル」は、『漢文解析』の入門編となります。

医験vol.16.10-漢文_再校.indd 174　2015/07/21 10:07